
Express5800/R32Bb シリーズモデル

ファームウェア更新ガイド

(オフライン版、Starter Pack 利用)

GZS-002366-001-00
2026年5月 第1版
© NEC Corporation 2026

目次

目次.....	2
1. はじめに	4
2. 本書について.....	4
2.1. 本文中の記号について.....	4
2.2. 注意事項	5
3. 準備	6
3.1. 事前確認	6
4. 接続	8
5. 装置基本操作方法	9
5.1. iLO WEB インターフェース接続方法	9
5.2. リモートコンソール接続方法	12
5.3. SUM ソフトウェア起動と終了方法.....	14
5.3.1. SUM ソフトウェアの起動方法	14
5.3.2. SUM ソフトウェアの終了方法	18
6. ファームウェア更新手順.....	20
7. トラブルシューティング	39
8. 付録	40
8.1. ファームウェアバージョン確認方法	40
8.1.1. iLO Web インターフェースでの確認方法.....	40
8.2. HTML5 リモートコンソール	42
8.2.1. コンソールの起動	42
8.2.2. 本体装置の電源制御方法.....	43
8.3. MCTP 設定変更方法	44
8.3.1. System Utilities の MCTP 設定変更方法.....	44
8.3.2. iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更方法	46
8.4. iLO レポジトリの整理方法	49

ご注意

1. 本書の内容の一部または全部について、許可なく複製・転載・翻訳・他形式・メディアへの変換を行うことは、禁止されております。
2. 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成いたしました。が、万一お気づきの点や、ご不明の点がありましたら、弊社までご連絡ください。
4. 本書記載操作を行った結果の影響については、上記 3 項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、ご了承ください。
5. 本書は、本体装置の操作に熟知した管理者、または保守員向けに記載されております。本体装置の取り扱いや、各種 OS の操作、その他一般的かつ基本的な事柄につきましては記載を省いておりますのであらかじめご了承ください。

© NEC Corporation 2026

日本電気株式会社の許可無く、本書の複製・改変などを行うことはできません。

1. はじめに

このたびは、Express5800/R32Bb シリーズ製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本書は、下記製品向けの文書となります。

対象製品 (本体装置)	Express5800/R32Bb-E2
-------------	----------------------




2. 本書について

本書は、対象本体装置の Starter Pack を使って、対象本体装置にインストールされているファームウェアをオフラインで更新するための手引きです。

ファームウェア更新作業時間	大凡 2 時間 00 分 (1 本体装置あたり)
---------------	--------------------------

2.1. 本文中の記号について

本書では、下記 3 種類の記号を使用しています。
これらの記号と意味をご理解になり製品を正しくお取り扱いください。

 重要	製品の取り扱いや、OS、ソフトウェアの操作で守らなければならない事柄や、特に注意すべき点を示します。
 チェック	製品や OS、ソフトウェアを操作する上で、確認しておく必要がある点を示します。
 ヒント	知っておくと役立つ情報や便利な事柄を示します。

また、本文中に掲載している画面イメージは一例であり、対象製品、対象製品の構成及びご使用 Starter Pack に依り若干異なる場合がありますが、操作する上で支障のない差異ですので、予めご承知おきください。

2.2. 注意事項

本書記載手順でのファームウェア更新に係る注意事項を記載します。

[注意事項 01]

本書記載手順でファームウェアを更新した場合、システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))及び iLO7 の設定が変更される場合があります。
そこで、本書記載手順でファームウェアを更新する前に、これら設定をバックアップし、ファームウェアを更新した後、これら設定をリストアすることをお勧めします。
バックアップ及びリストア方法については、下記ガイドを参照してください。

- システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))
→ 対象本体装置のメンテナンスガイド(設定編)
- iLO7 の設定
→ 対象本体装置の iLO7 ユーザーズガイド



本体装置セットアップ時におけるシステムユーティリティ設定に係る事項が、本体装置のユーザーズガイドの「3 章 (2.4 設定が必要なケース)」に記載されています。



各種ガイドの最新版を、web サイト <https://www.support.nec.co.jp> に掲載しています。

[注意事項 02]

本書記載手順でファームウェアを更新し、システムユーティリティの設定(BIOS/Platform Configuration (RBSU))及び iLO7 の設定をリストアもしくは再設定した後、これら設定をバックアップしてください。



何世代も前のファームウェア環境下でバックアップしたバックアップファイルが、新しいファームウェア環境下でリストアできなくなる場合があります。

[注意事項 03]

本書記載手順でファームウェア更新した場合、ブートデバイス順序が変わる可能性があり、その結果として、OS 起動不可、または OS 起動に時間がかかるようになる場合があります。
そこで、本書記載手順でファームウェア更新した後、下記手順にて、ブートデバイス順序を確認すると共に、起動したいブートデバイスを最上位に移動させてください。


[ブートデバイス順序確認/変更方法]



01. 対象本体装置の電源を ON し、POST 起動中(Function Key 案内表示後)に<F9>キーを押下し、**System Utilities** を起動します。
02. **System Utilities** において、{**System Configuration** → **BIOS/Platform Configuration(RBSU)** → **Boot Options** → **UEFI Boot Settings** → **UEFI Boot Order**}へと進みます。
03. 「UEFI Boot Order」画面において、起動したいブートデバイスが最上位に位置していることを確認します。
もし最上位に位置していないならば、最上位に移動させます。
04. <F10>(Save)キーを押下します。
05. <Esc>キーを数回押下し、**System Utilities** トップ画面まで戻り、『**Reboot the System**』を選択し、対象本体装置を再起動します。

3. 準備

本作業では、対象本体装置以外に下記物品が必要となりますので、予めご準備ください。

Table 3-1 必要となる物品

物品	数量	備考
端末パソコン (Windows OS)	1	<p>Windows OS をインストールしたパソコンです。 本体装置に接続し、本体装置を操作するために使用します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  重要 ご使用になる Starter Pack ファイル(iso ファイル)を、予め当該端末パソコンのローカルディスクに収録しておいてください。 </div>
ディスプレイ	1	本体装置に接続し、本体装置の画面として使用します。
LAN ケーブル	1	本体装置と端末パソコンを接続するために使用します。

 ヒント	<p>既に、本体装置のマネージメント専用 LAN コネクタ(iLO)を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されており、且つ下記物品或いは情報をご存じである場合、前記< Table 3-1 必要となる物品 > は不要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> - iLO Web インターフェースにアクセスする端末パソコン (Windows OS) - iLO Web インターフェースの User Name と Password - iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレス <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">  重要 ご使用になる Starter Pack ファイル(iso ファイル)を、予め iLO Web インターフェースへのアクセス端末のローカルディスクに収録しておいてください。 </div>
---	---

3.1. 事前確認

[事前確認 01]

IO 系デバイスにケーブル(*a)などが接続されている場合、それらケーブル(*a)接続状態を記録した上で、当該ケーブル(*a)を取り外してください。そして、ファームウェア更新作業終了後に、それらケーブル(*a)を元の接続状態に戻してください。(目的:不測事態を防ぐため)

(*a) 本体装置内蔵 SAS/SATA ケーブルは対象外

[事前確認 02]

IO 系デバイスの PCIe Option ROM が"Disabled"に設定されている場合、IO 系デバイスのファームウェア version を確認できない場合があります ("N/A"と表示される)。その場合には、当該 IO 系デバイスの PCIe Option ROM 設定を一旦"Enabled"に変更して頂き、一連のファームウェア更新作業終了後に"Disabled"に戻してください。

PCIe Option ROM 設定は、{System Utilities: System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → PCIe Device Configuration → <PCIe デバイス (*a)>}で行えます。

(*a) PCIe Option ROM Disabled 設定時、PCIe デバイス表記は下表の通りになります。

モジュール	PCIe デバイス表記 (Option ROM Disabled 時)
RAID/SAS Controller	Storage Controller

	NVM Express Controller
NIC/LOM	Network Controller
FC Controller	PCIe Controller

[事前確認 03]

本書記載ファームウェア更新手順は、Trusted Platform Module(TPM)に対応していません。

TPM は標準搭載されていますので、下記操作を行って、一旦、「TPM Visibility」を[Hidden]に変更します。また、FW 更新作業後、「TPM Visibility」と「Platform Certificate Support」を元の設定値に戻してください。

[TPM Visibility 設定変更方法]

01. 対象本体装置の電源を ON し、POST 起動中(Function Key 案内表示後)に<F9>キーを押下し、System Utilities を起動します。
02. System Utilities において、{System Configuration → BIOS/Platform Configuration(RBSU) → Server Security}へと進み、「Microsoft(R) Secured-core Support」の現設定値を控えた上で、[Disabled]に変更します。
03. Server Security 画面において、{Trusted Platform Module Options → Advanced Trusted Platform Module Options}へと進み、「TPM Visibility」の現設定値を控えた上で、[Hidden]に変更します。
04. <F10>(Save)キーを押下します。
05. <Esc>キーを数回押下し、System Utilities トップ画面まで戻り、『Reboot the System』を選択し、対象本体装置を再起動します。

[事前確認 04]

System Utilities 及び iLO Web インターフェースでの MCTP 設定が「無効」になっていると、ファームウェア更新が失敗する場合があります。

そこで、ファームウェア更新を行う前に、下記<MCTP 設定に係る事前作業>を行ってください。

そして、一連のファームウェア更新作業終了後、必要に応じて、MCTP 設定を元に戻してください。

<MCTP 設定に係る事前作業>

- 1) System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける現 MCTP 設定値を控える (記録する)。
- 2) System Utilities 及び iLO Web インターフェースにおける全てのスロットの MCTP 設定を、一旦「有効」に設定する。

MCTP 設定変更方法については、<8.3MCTP 設定変更方法>を参照してください。

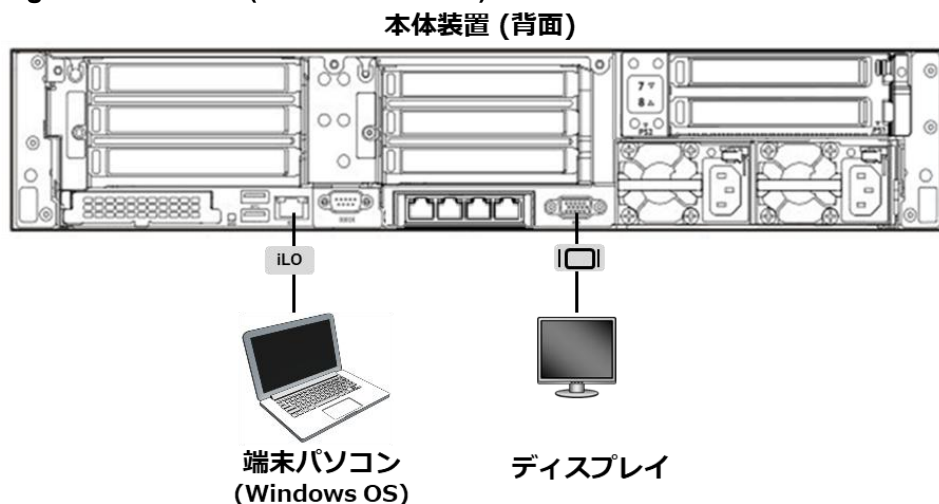


MCTP 設定は、System Utilities 及び iLO Web インターフェースのどちらとも、デフォルト「有効」です。

4. 接続

ご準備頂いた物品を下図のとおり本体装置に接続します。

Figure 4-1 接続図 (R32Bb-E2 モデル)



端末パソコンと本体装置は、LAN ケーブルで直結させてください。

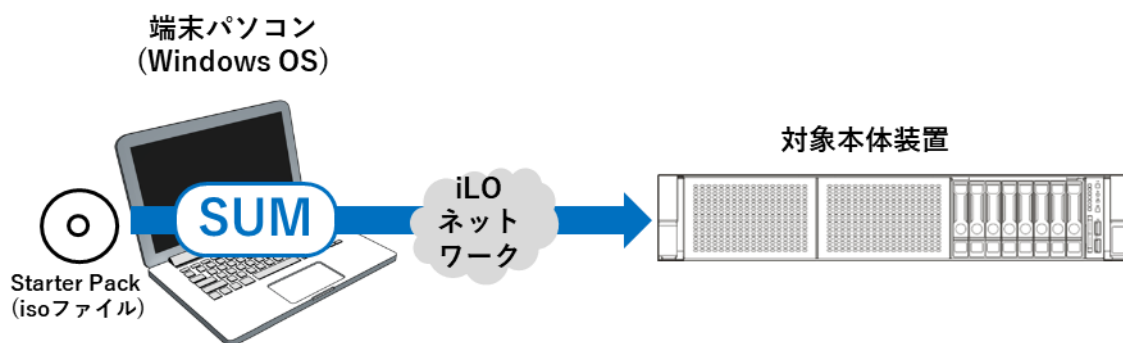


既に、本体装置の管理専用 LAN コネクタ (iLO) を介した iLO Web インターフェースへの接続環境を構築されている場合、そのままの接続環境で構いません。

但し、端末パソコンは、**Windows OS** であることが必須です。



本書記載手順では、端末パソコン (Windows OS) に収録した Starter Pack (iso ファイル) から「Smart Update Manager (SUM)」と呼ぶソフトウェアを起動し、当該ソフトウェアを使って、iLO ネットワーク経由で対象本体装置のファームウェアを更新します。



5. 装置基本操作方法

本書記載のファームウェア更新手順では、本体装置に接続した端末パソコンから本体装置の iLO Web インターフェース及び本体装置のリモートコンソールに接続して更新作業を行います。

また、端末パソコン上で「Smart Update Manager (SUM)」と呼ぶソフトウェアを起動して更新作業を行います。

ここでは、予め、iLO Web インターフェース接続方法、リモートコンソール接続方法、及び SUM ソフトウェア起動と終了方法を記載します。

5.1. iLO Web インターフェース接続方法

[step.a-01] iLO Web インターフェースへの接続情報の確認

A. iLO Web インターフェースの User Name と Password の確認

本体装置前面のスライドタグにある iLO ライセンスシール中に記載されている「User Name」と「Password」を控えます。



ヒント

既に、iLO Web インターフェースの User Name と Password をご存じである場合、本作業は不要です。



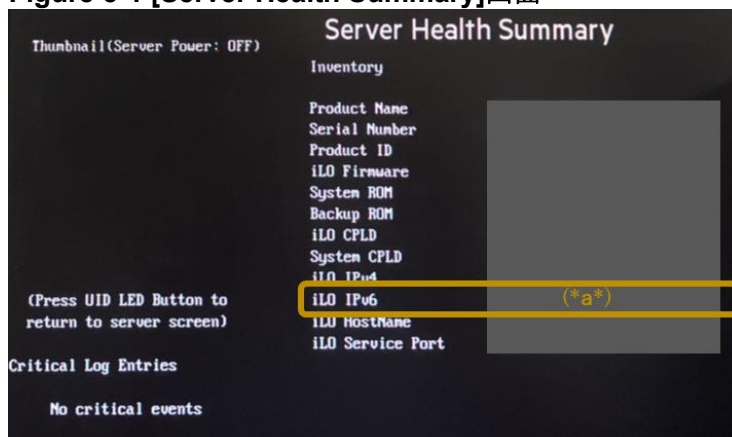
ヒント





以降の作業で、この User Name と Password が必要になります。

B. iLO Web インターフェースの IP アドレス(IPv6)の確認

- ① 本体装置の電源コードをコンセントに取り付けます。
- ② **Server Health Summary** 画面をディスプレイに表示させます。
具体的には、前記①の後、本体装置前面の **POWER** ランプがアンバー色に点灯していることを確認した上で、**UID** スイッチを押します。
そうすると、ディスプレイに下図画面が表示されますので、下図(*a*)箇所の「iLO IPv6」のアドレスを控えます。

Figure 5-1 [Server Health Summary]画面



	<p>既に、iLO Web インターフェースの IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレスをご存じである場合、本作業は不要です。</p>
	<p>IPv6 の仕様として、セクションが"0"で始まる場合、"0"を省略して表示しても良いことになっています。</p> <p>そのため、表示される IPv6 アドレスの各セクションが 4 桁ではない場合があります。その際は、各セクションが 4 桁となるように、セクションの先頭に"0"を付加して控えてください。</p> <p>(例) 表示値: fe80::9618:82ff:fe71:2b4 控え値: fe80::9618:82ff:fe71:02b4</p>
	<p>前記①の後、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯していた場合、本体装置の電源が ON されています。</p> <p>その場合は、POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF します (スタンバイ状態にします)。</p> <p>本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。</p>
	<p>以降の作業で、この IPv4 アドレスもしくは IPv6 アドレスが必要になります。</p>

[step.a-02] iLO Web インターフェースへの接続とログイン

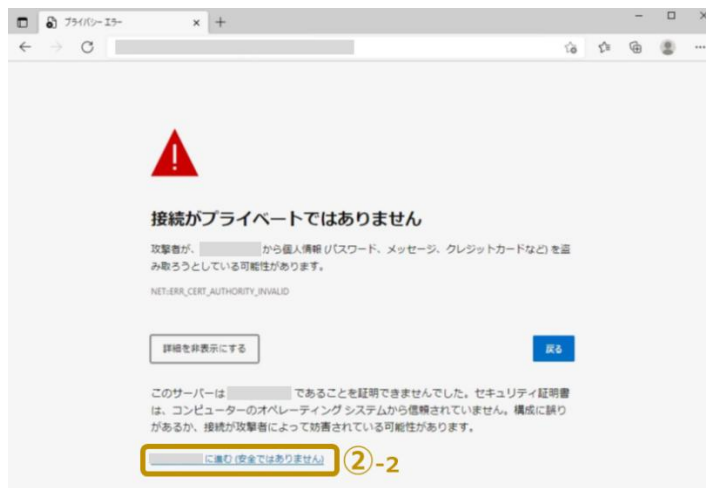
A. iLO Web インターフェースへの接続

- ① 端末パソコンにて Web ブラウザ (Microsoft Edge 等) を起動し、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの IP アドレスをアドレスバー (①) に入力します。

例) `https://[abcd::efgh:ijkl:mnop:qrst]/`

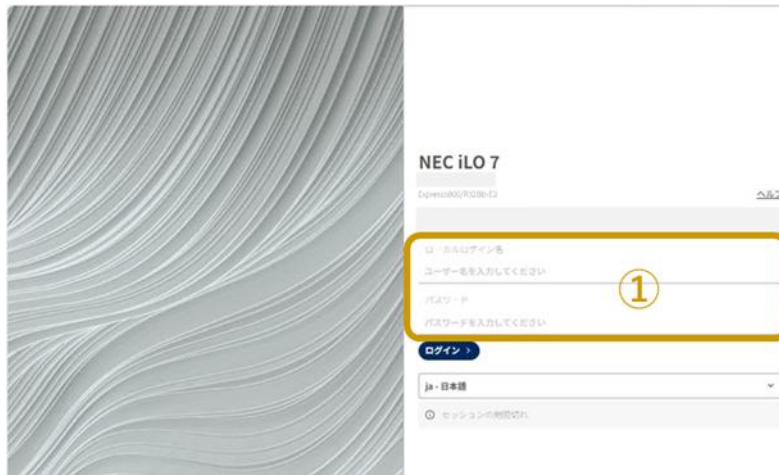


- ② セキュリティ警告が表示された場合は、上図画面の [詳細情報] (②-1) をクリックします。そうすると、下図画面表示になりますので、[xxxx に進む (安全ではありません)] (②-2) をクリックしてください。



B. iLO Web インターフェースへのログイン

iLO Web インターフェースに接続できると下図画面が表示されますので、前記作業で控えておいた iLO Web インターフェースの **User Name** と **Password** を①箇所に入力し、[ログイン]ボタンを押します。



ログインに成功すると、下図画面に切り替わります。



5.2. リモートコンソール接続方法

[step.b-01] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて[ホスト] (①)をクリックし、ホスト画面にて[リモートコンソール] (②)をクリックします。

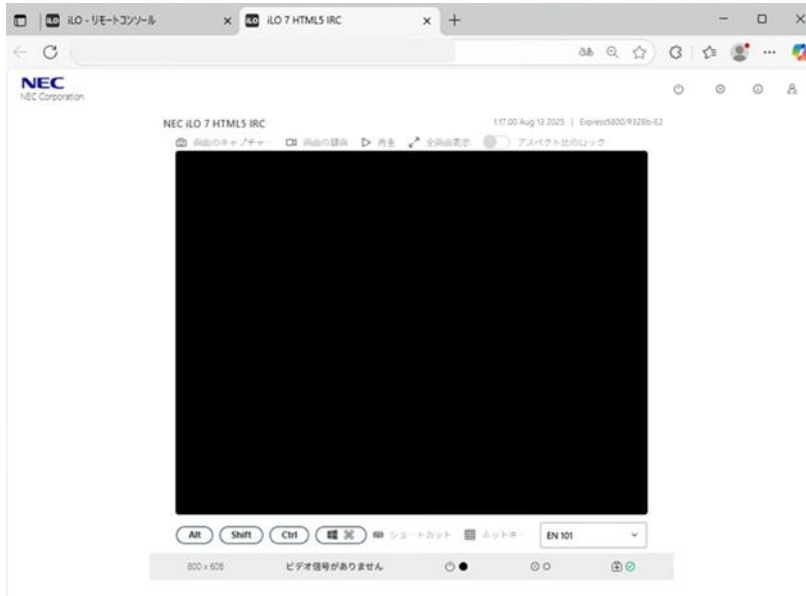


そして、下図リモートコンソール画面にて、[HTML5 コンソールの起動] (③)をクリックします。



そうすると、Web ブラウザ(Microsoft Edge 等)の別タブに、下図コンソールが表示されます。

[HTML5 リモートコンソール]



5.3. SUM ソフトウェア起動と終了方法

端末パソコン(Windows OS)上で、Starter Pack (iso ファイル) から「Smart Update Manager (SUM)」と呼ぶソフトウェアを起動する方法、及び SUM ソフトウェアを終了する方法を記載します。

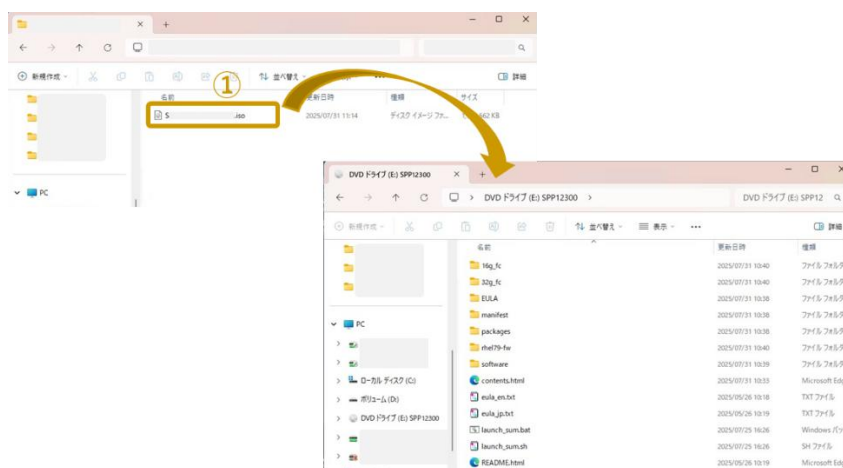
5.3.1. SUM ソフトウェアの起動方法

[step.c-01] Starter Pack ファイルのマウント

端末パソコン(Windows OS)において、Administrator 権限のあるアカウントでログインし、エクスプローラを起動します。

そして、当該パソコンのローカルフォルダに収録してある対象 Starter Pack ファイル(iso ファイル)①を右クリックして、[マウント] を選択します。

そうすると、Starter Pack (iso ファイル) 内のフォルダ/ファイルが表示されます。



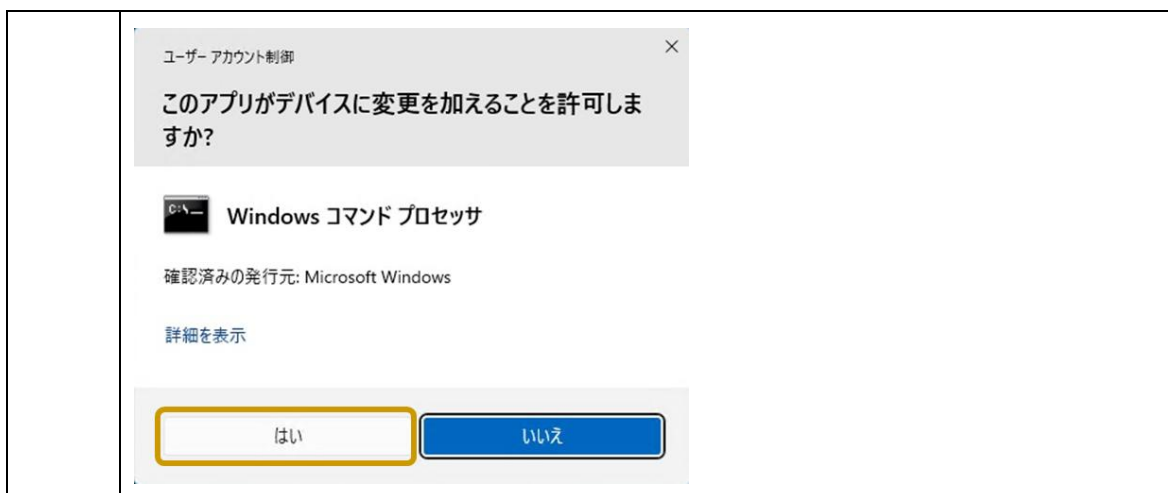
[step.c-02] SUM ソフトウェアの初期化

マウントした Starter Pack (iso ファイル)内の下記ファイルを右クリックして、[管理者として実行] を選択します。

```
¥packages¥clean-cache.bat
```



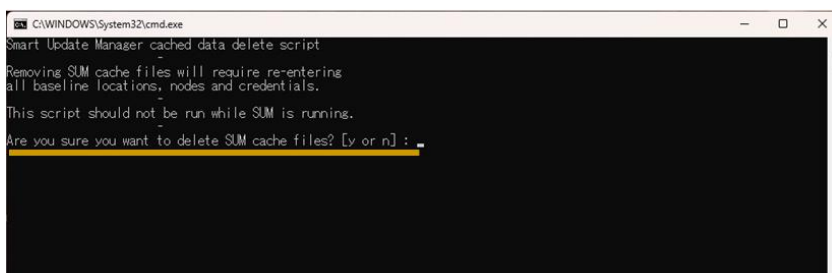
下図ダイアログ BOX がポップアップ表示された場合は、[はい]をクリックします。



そうすると、コマンドプロンプト画面がポップアップ表示されますので、

Are you sure you want to delete SUM cache file? [y or n]:

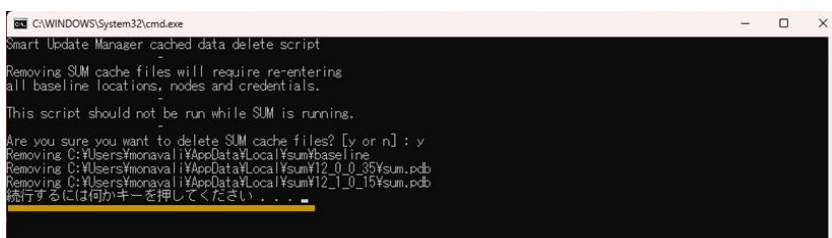
の問い合わせに対して、「y」を入力します。



その後、

続行するには何かキーを押してください...

の問い合わせに対して、<Enter>キーを押します。




<Enter>キーを押すと、コマンドプロンプト画面が消えます。

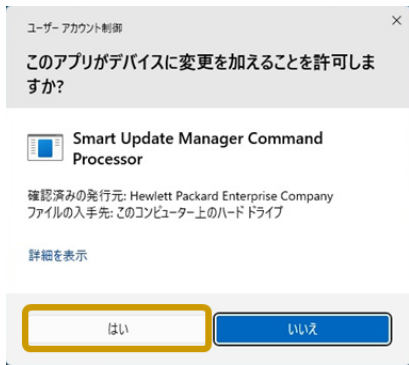
[step.c-03] SUM ソフトウェアの起動

マウントした Starter Pack (iso ファイル)内の下記ファイルを右クリックして、[管理者として実行] を選択します。

¥launch_sum.bat

 ヒント


下図ダイアログ BOX がポップアップ表示された場合は、[はい]をクリックします。




 ヒント

SUM ソフトウェアを起動しているコマンドプロンプト画面がポップアップ表示されます。本コマンドプロンプト画面は、何もせずそのままにしておきます。

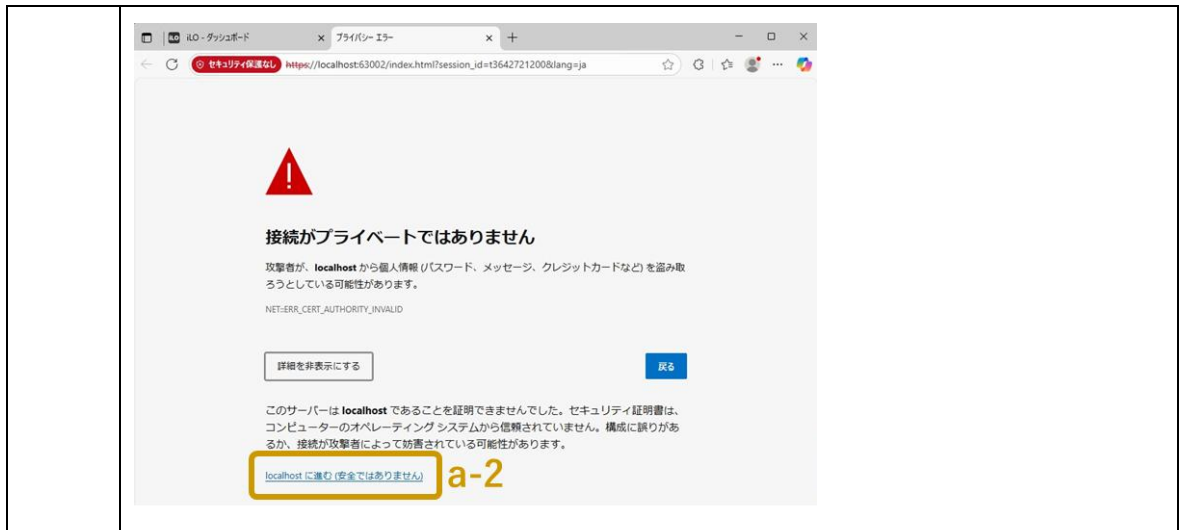


 ヒント

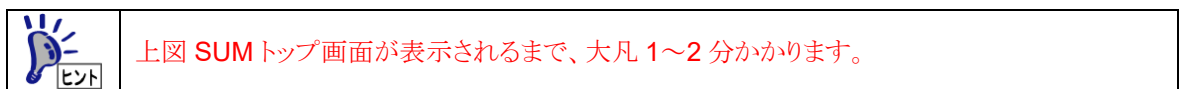
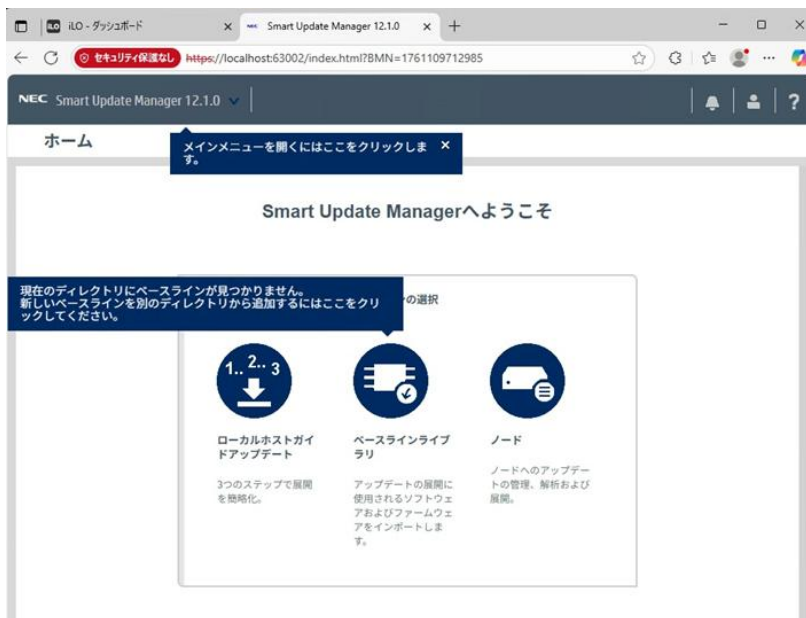
Web ブラウザ(Microsoft Edge 等)が起動し、下図セキュリティ警告が表示された場合は、下図画面の[詳細情報] (a-1) をクリックします。



そうすると、下図画面表示になりますので、[localhost に進む (安全ではありません)] (a-2) をクリックしてください。




そうすると、Web ブラウザ(Microsoft Edge 等)が起動し、下図 SUM トップ画面が表示されます。



5.3.2. SUM ソフトウェアの終了方法


[step.d-01] SUM ソフトウェアの終了

端末パソコン(Windows OS)において、下図 SUM 画面にて、画面右上の[セッション]アイコン() (①)をクリックし、プルダウンメニューから[ログアウト](②)をクリックします。



そうすると、下図「ログオフ/シャットダウン」ダイアログ BOX がポップアップ表示されますので、[シャットダウン - ...](③)を選択した上で、[OK](④)をクリックします。



 ヒント	<p>SUM 画面を表示していた Web ブラウザ(Microsoft Edge 等)のタブ画面に下図メッセージが表示され、SUM ソフトウェアが終了します。</p> <p style="text-align: center;">Smart Update Managerは正常にシャットダウンされました Smart Update Managerをご使用いただきありがとうございます</p>
--	---

[step.d-02] コマンドプロンプトの終了

端末パソコン(Windows OS)上に開いている、SUM ソフトウェアを起動していたコマンドプロンプト画面において、下記コマンドを入力して、コマンドプロンプトを終了させます。

```
C:¥Windows¥System32> exit
```



[step.d-03] Starter Pack ファイルのアンマウント

端末パソコン(Windows OS)において、Administrator 権限のあるアカウントでログインし、エクスプローラを

起動します。



そして、**Starter Pack** ファイル(iso ファイル)がマウントされているドライブにマウスを合わせ右クリックして、**[取り出し]** を選択します。

そうすると、**Starter Pack (iso ファイル)** がアンマウントされます。



6. ファームウェア更新手順

本体装置にインストールされているファームウェアの更新方法を記載します。

	<p>本作業を行う前に、本体装置の電源が OFF になっていることを確認してください。 具体的には、本体装置正面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認してください。</p>
	<p>POWER ランプが消灯している場合、電源コードがコンセント或いは本体装置から外れている可能性がありますので、ご確認ください。</p> <p>POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯している場合、本体装置の電源が ON されています。 POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置の電源を OFF してください(スタンバイ状態にしてください)。 本体装置の電源が OFF されると、POWER ランプがアンバー色に点灯します。</p>

[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1 iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.1-02] iLO 設定の事前確認

事前確認項目はございません。次の作業に進んでください。

[step.1-03] リモートコンソールの起動

iLO Web インターフェースからリモートコンソールを起動します。

具体的な手順は、前記<5.2 リモートコンソール接続方法>を参照してください。


[step.1-04] 本体装置の電源 ON

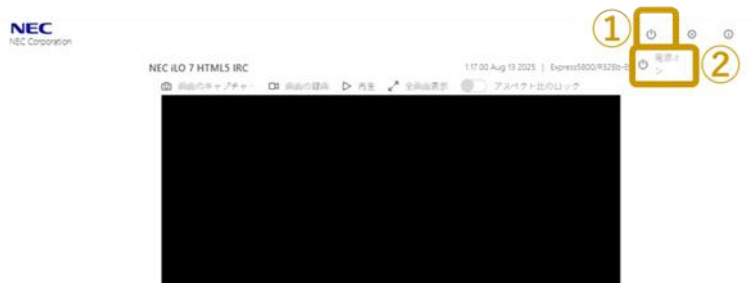
本体装置の電源を ON します。


具体的には、下記何れかの操作を行います。

- 本体装置前面の **POWER** ボタンを押す。
- iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて[ホスト] (①)をクリックし、ホスト画面にて[電源制御] (②)をクリックする。その後、電源制御画面にて[電源オン] (③)をクリックする。



- リモートコンソール右上の電源アイコン () (①) をクリックし、プルダウンメニューから [電源オン] (②) をクリックする。



 ヒント	リモートコンソールでのその他電源操作については、< 8.2.2 本体装置の電源制御方法 > に記載しております。
--	--

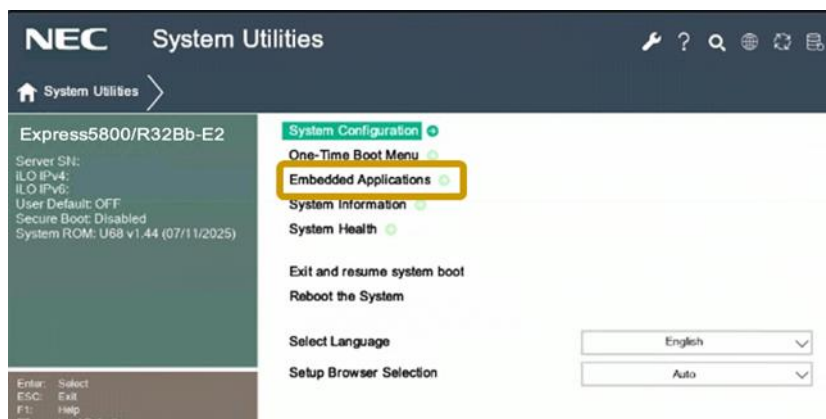
[step.1-05] System Utilities の起動

本体装置電源 ON 後、リモートコンソールが下図画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



[step.1-06] UEFI Shell の起動

リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、[Embedded Applications] → [Embedded UEFI Shell] を選択します。



UEFI Shell が起動すると、リモートコンソールが下図画面に切り替わります。

[UEFI Shell 画面]

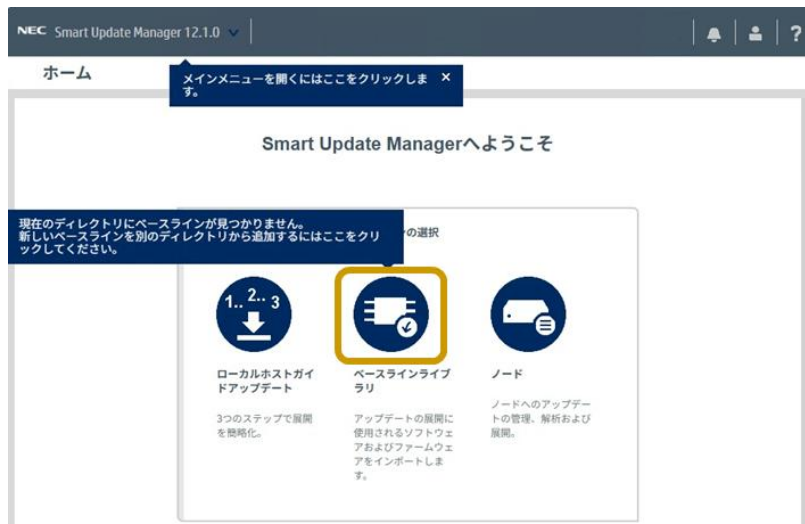



[step.1-07] SUM ソフトウェアの起動


端末パソコン(Windows OS)上で、Starter Pack (iso ファイル) から「Smart Update Manager (SUM)」ソフトウェアを起動します。
 具体的な手順は、前記<5.3.1SUM ソフトウェアの起動方法>を参照してください。

[step.1-08] ベースラインライブラリのロード(追加)

Starter Pack 内の各種コンポーネント(ベースラインライブラリ)を SUM にロードします。
 具体的には、SUM トップ画面において、[ベースラインライブラリ]を選択します。





 **ヒント** ベースラインライブラリのロードが開始されると、下図メッセージが表示されます。

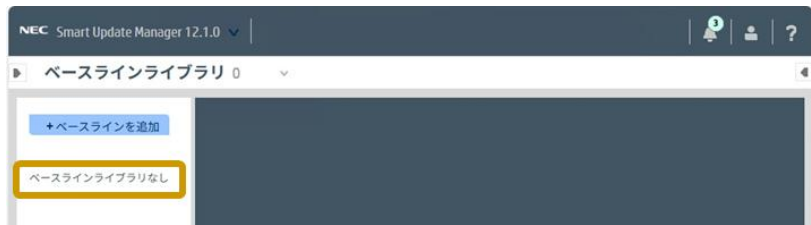
インベントリの進行中  コンポーネント 141/189 を処理しています 今日 8:47:19 am ▾

ベースラインライブラリのロードが完了すると下図メッセージが表示されますので、それまでしばらくお待ちください。

ベースラインが正常に追加されました 今日 8:48:04 am ▾

 **ヒント** ベースラインライブラリのロード完了まで、約 10～20 分ほどかかります。

 **ヒント** SUM 画面に、下図のように、「ベースラインライブラリなし」と表示された場合、下記[ベースラインライブラリ追加]処理を行ってください。



[ベースラインライブラリ追加]処理

(A) 下図 SUM 画面にて、[ベースラインを追加] をクリックします。



(B) 下図「ベースラインを追加」ダイアログ BOX ポップアップ表示されますので、「ロケーションの詳細」-「ディレクトリパスを入力」欄(B-1)に、下記を入力して、[追加](B-2)をクリックします。

<Stater Pack マウントドライブ>:\%packages

(注) <Stater Pack マウントドライブ>とは、<[step.1-07] SUM ソフトウェアの起動>において、Starter Pack ファイル(iso ファイル)がマウントされたドライブです。(例: E)

ベースラインを追加

ロケーションのタイプ

ロケーションのタイプを選択

ロケーションの詳細

一覧または手動で、ベースラインのコンポーネントがある位置のディレクトリパスを入力してください。(B-1)

ディレクトリパスを入力 一覧

「<Stater Packマウントドライブ>:\%packages」と入力する。
上記例では、<Stater Packマウントドライブ>は“E”。

(B-2)

そうすると、ベースラインライブラリのロードが開始され、下図メッセージが表示されます。

インベントリの進行中 コンポーネント 141/189 を処理しています 今日 8:47:19 am

[step.1-09] 本体装置の指定

ファームウェア更新する本体装置を指定します。

具体的には、下図 SUM 画面左上の[Smart Update Manager x.x.x](①)箇所をクリックし、プルダウンメニューから[ノード](②)を選択します。



SUM 画面が下図画面に切り替わりますので、[ノードの追加](③)を選択します。




下図「ノードの追加」ダイアログ BOX がポップアップ表示されますので、④、⑤および⑥箇所の必要項目を適切に設定します。



■ノード(④)の設定■

必要項目	設定値	備考
操作の選択	単一ノードあるいは既存の範囲のノードを追加	デフォルトから変更なし。
IPV4/IPV6/DNS	対象本体装置の iLO IP アドレス	iLO Web インターフェースに接続した際の IP アドレス。
説明	iLO	”iLO”と入力。
ノードタイプ	iLO	”iLO”を選択。



上表「ノードタイプ」で[iLO]を選択した際、下図メッセージが追加表示される場合がありますが、なにも変更せずそのままにします。

前提条件のインストールオプション

前提条件コンポーネントがまだインストールされていない場合はインストールします

警告: サーバーでは前提条件コンポーネントがインストールされている必要があります。

■適用するベースライン(⑤)の設定■

必要項目	設定値	備考
ベースライン	Standard Program Package xx.xx.xx at ...	プルダウンメニューから選択。 前記<[step.1-08] ベースラインライブラリのロード(追加)>にてロードしたベースラインライブラリを選択。

■ 認証情報(⑥)の設定 ■

必要項目	設定値	備考
ユーザー名	対象本体装置の iLO のログインユーザー名	iLO Web インターフェースにログインした際の iLO ログイン名。
パスワード	上記ログインユーザー名の パスワード	上記 iLO ログイン名のパスワード。


必要項目を適切に設定した後、[追加] (⑦)をクリックします。
[追加] (⑦)ボタンがグレーアウトされたならば、[閉じる] (⑧)をクリックします。

[step.1-10] ファームウェアインベントリの開始

対象本体装置の指定が完了すると、SUM 画面が下図画面に切り替わりますので、対象本体装置のファームウェアのインベントリを開始します。


具体的には、当該画面の左ペインにて、対象本体装置の iLO IP アドレス表示箇所(①)をクリックします。そして、[アクション] (②)をクリックし、プルダウンメニューから[インベントリ] (③)をクリックします。






ヒント

上図対象本体装置の iLO IP アドレス表示箇所(①)をクリックした後、下図 B のメッセージが表示されたならば、上図 A のメッセージが表示されるまで、しばらくお待ちください。(約 3 分程度)






ヒント

端末パソコンと対象本体装置間の iLO ネットワーク状況に因り、対象本体装置の検出に時間を要している場合、上図 B のメッセージが表示されます。

そうすると、下図「インベントリ」ダイアログ BOX がポップアップ表示されますので、
[現在選択されているベースライン] (④)に、「Standard Program Package xx.xx.xx at ...」と表示されて

いることを確認した上で、[インベントリ] (⑤) をクリックします。



 ヒント

もし[現在選択されているベースライン] (④) に何も表示されていない場合は、[ベースライン] (⑥) のプルダウンメニューから「Standard Program Package xx.xx.xx at …」(注) を選択した上で、[インベントリ] (⑤) をクリックしてください。

(注) 前記<[step.1-08] ベースラインライブラリのロード(追加)>にてロードしたベースラインライブラリを選択。

 ヒント


ファームウェアインベントリが開始されると、SUM 画面に、「インベントリを開始しました。」と表示されます。



[step.1-11] ファームウェアインベントリの完了待ち

ファームウェアインベントリが完了すると、SUM 画面に、下図いずれかのメッセージが表示されますので、当該メッセージが表示されるまで、しばらくお待ちください。



 ヒント

インベントリ完了まで、約 10 分ほどかかります。

[step.1-12] ファームウェアの選択

下図 SUM 画面にて、[アクション] (①) をクリックし、プルダウンメニューから[レビュー/展開] (②) をクリックします。



そうすると、下図「展開」ダイアログ BOX がポップアップ表示されます。



ヒント

「展開」ダイアログ BOX にて、下図(A)のような TPM に係る警告メッセージが表示された場合は、下記[TPM 関連処置]を行ってください。

展開

警告を無視

Warning: Integrated Smart Update Tools was not running on the OS. If components are selected to install via an iLO install set that require installation in the OS then they will not run unless iSUT or Smart Update Manager are run.

(A) 警告 - このシステムで Trusted Platform Module (TPM) が有効になっています。OSでTPM機能が構成されている場合は、ファームウェアアップデートを続行する前に、TPM機能に提供されているリカバリパスワードが利用可能であることを確認してください。ファームウェアアップデートはプラットフォーム上で有効になっているセキュリティ機能に影響する可能性があります。

Warning - Firmware update is being performed on the target system OS which is not supported by selected SPP baseline. Proceeding further may result in potential issues. It is not recommended to continue with the updates using this baseline on unsupported target OS.

[TPM 関連処置]

(A) 下図 SUM の「展開」ダイアログ BOX において、[キャンセル] (①) をクリックし、展開をキャンセルします。

展開

Warning: Integrated Smart Update Tools was not running on the OS. If components are selected to install via an iLO install set that require installation in the OS then they will not run unless iSUT or Smart Update Manager are run.

Warning - Firmware update is being performed on the target system OS which is not supported by selected SPP baseline. Proceeding further may result in potential issues. It is not recommended to continue with the updates using this baseline on unsupported target OS.

ノードの詳細
IP/DNS: <対象本体装置のiLO IPアドレス>
タイプ: iLO 7
1 コンポーネントがアップデートのために選択されました

ベースラインの詳細
推奨展開時間 01分
Standard Program Package
合計サイズ: 982.77MB
選択されたコンポーネント: 1, サイズ: 5.01 MB

インストールオプション 再起動オプション iLOレポジトリオプション

インストールオプションは、ダウンロード、書き換えおよびその他の設定を選択することができます。

オプション: ファームウェアおよびソフトウェア

依存エラーのあるコンポーネントをスキップ

①
展開 キャンセル

- (B) <5.3.2SUM ソフトウェアの終了方法>を行い、SUM ソフトウェアを終了させます。
- (C) <[step.2-04] 本体装置の電源 OFF>を行い、本体装置を電源 OFF させます。
- (D) <3.1 事前確認>の[事前確認 03]を確認し、適切に処置します。
- (E) 再度、<[step.1-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン>からやり直します。

A. iLO レポジトリオプションの変更


下図 SUM の「展開」ダイアログ BOX において、[iLO レポジトリオプション]セクション(①)をクリックします。

そして、

「コンポーネントをインストールセットとして iLO レポジトリに保存」(②)

にレ印チェックが入っているならば、当該レ印チェックを外します。




 ヒント

当該レ印チェックを入れたままにすると、下記「B.ファームウェアの選択」にて選択された全てのファームウェア更新コンポーネントがセット化されたインストールセットが作成され、iLO Web インターフェースの{ファームウェア → インストールセット}に登録されます。

今回のファームウェア更新完了以後に、当該インストールセットを使用することはありませんので、今回のファームウェア更新完了後に、当該インストールセットを削除して頂いて構いません。

削除方法については、「iLO7 ユーザーズガイド」を参照願います。




B. ファームウェアの選択

下図 SUM の「展開」ダイアログ BOX において、[ベースラインライブラリ]セクション(①)をクリックする

と、インベントリされたファームウェアの一覧が表示されます。



 ヒント
 上図「インベントリファームウェア一覧」内の「利用可能なバージョン」欄に表示される情報は、ファームウェアバージョンとは限りませんので、当該情報は無視してください。

当該[ベースラインライブラリ]セクション(①)において、更新するファームウェアを選択します。

更新必須なファームウェア(パッケージ)を、下記< Table 6-1 更新必須対象ファームウェア(パッケージ)>に記載します。

Table 6-1 更新必須対象ファームウェア(パッケージ)

パッケージ (*a)	参考情報 (対応デバイス)	備考
(OEM_U68 -----)	Mother Board (System ROM)	
(ilo7 -----)	Mother Board (ILO)	
(lang_ja -----)	Mother Board (language-pack)	
(HPE_MR408i-o_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-062/062L]	(*01)
(HPE_MR416i-o_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-063/063L]	(*01)
(HPE_MR416i-p_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-065/065L]	(*01)
(HPE_MR216i-o_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-061/061L]	(*01)
(HPE_MR216i-p_ ...)	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-064/064L]	(*01)
(HPE_NS204i_ ...)	OS ブート専用ボード [N8803-066/066L]	(*01)
(BCM5719N ...)	LOM (bcm, 1G, T) [N8804-027/027L]	(*01)
(BCM5719A ...)	NIC (bcm, 1G, T) [N8804-028/028L]	(*01)
(bcm ...)	LOM/NIC (bcm, 10G, T)	(*01)

	[N8804-022/022L/023/023L]	
(mhupd_header.pldm)	FC (qlgc, 32G) [N8890-014/014L]	(*01)
<p>(*a) 「展開」ダイアログ BOX - [ベースラインライブラリ]セクションの「パッケージ」欄に表示される文字列の一部です。</p> <p>(*01) 本体装置構成に依っては表示されない場合があります。</p>		

当該[ベースラインライブラリ]セクション(①)において、更新必須対象ファームウェア(パッケージ)の「コンポーネントを選択」欄を確認します。



「選択 (灰色バー)」または「強制 (灰色バー)」であるならば、当該ボタンをクリックし、「選択済み (青色バー)」または「強制 (青色バー)」に変更してください。



重要

当該[ベースラインライブラリ]セクション(①)において、★更新必須対象以外★の全てのファームウェア(パッケージ)に対して、「コンポーネントを選択」欄の設定を変更しないでください。

ヒント

設定変更しないことに因り、更新必須対象以外のファームウェア(パッケージ)も更新される場合がありますが、これは意図した更新であり、問題ありません。

C. ファームウェアの展開要否の確認

下図 **SUM** の「展開」ダイアログ **BOX** の[ベースラインライブラリ]セクションにおいて、ファームウェアの展開要否を確認します。

具体的には、下図画面の「選択されたコンポーネント」項目(①)を確認します。



- 「選択されたコンポーネント:0」であるならば、ファームウェア展開は不要です。
<[step.1-14] SUM ソフトウェアの終了>を行った後、<[step.2-04] 本体装置の電源 OFF>に進みます。

- 「選択されたコンポーネント:0」以外であるならば、ファームウェア展開が必要です。下記「D. ファームウェアの展開」に進みます。

D. ファームウェアの展開

下図 SUM の「展開」ダイアログ BOX において、[展開] (①) をクリックします。



重要 本操作を行った日時を記録しておいてください。以降の < [step.3-02] iLO レポジトリの整理 > にて必要になります。

[step.1-13] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認

A. ファームウェア展開の完了待ち

展開が開始されると、SUM 画面に、「展開が開始されました。」 (①) と表示されます。



展開が完了すると、SUM 画面に、「インストールは終了しました。」 (②) と表示されますので、それまでしばらくお待ちください。



ヒント 全てのファームウェアの展開が完了するまで、最大約 50 分ほどかかります。

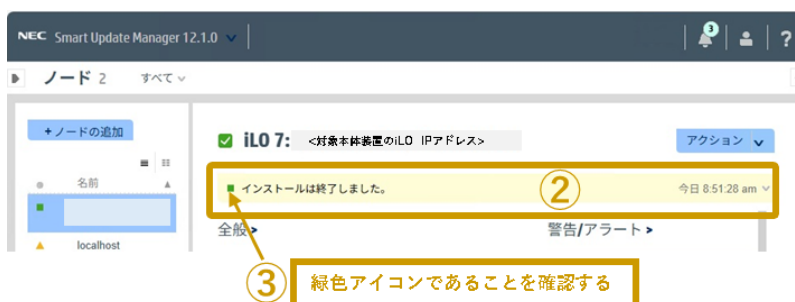
重要 Mother Board(iLO) 或いは Mother Board(language pack) の展開中に iLO がリセットされ、iLO Web インターフェース及びリモートコンソール接続が切断されます。

よって、Mother Board(iLO)或いは Mother Board(language pack)の展開が終了したら (約 10 分後)、下記手順を実施し、iLO Web インターフェースへの再接続・ログイン、リモートコンソールの再起動を行ってください。

1. <5.1iLO Web インターフェース接続方法>
2. <5.2リモートコンソール接続方法>

B. ファームウェア展開の結果確認

全てのファームウェアの展開が完了すると、SUM 画面に、「インストールは終了しました。」(②)と表示されますので、当該メッセージの左端に表示されているステータスアイコン(③箇所)が緑色であることを確認してください。



[step.1-14] SUM ソフトウェアの終了

<5.3.2SUM ソフトウェアの終了方法>を行い、SUM ソフトウェアを終了させます。

[step.1-15] 本体装置の再起動

リモートコンソールに表示されている UEFI Shell 画面において、下記コマンドを入力します。

```
Shell> reset
```

```
NEC Embedded UEFI Shell v2.2. UEFI v2.100
Type 'help -b' for a list of available commands
Type 'help <command> -b' for help on the <command>
Type 'set -v pagebreak 1' to enable global output pagination (page breaks)

Press any key in 5 seconds for User Physical Presence.
User Physically Present: Yes!
Shell> reset
```

本体装置が再起動しますので、以降の<[step.2-01] System Utilities の起動>に進みます。

[step.2-01] System Utilities の起動

再起動後、リモートコンソールが下図画面表示になったならば、<F9>キーを押して System Utilities を起動します。



上図 POST 画面表示以前のタイミングで、数回再起動する場合があります。これは、展開されたファームウェアを反映させるための動作であり、正常な動作です。



上図 POST 画面表示のタイミングで、下図のようなメッセージが表示され、ファームウェア更新が行われる場合があります。このファームウェア更新に、大凡 10 分くらいかかります。

```
Starting all devices for RESTful firmware update pending task. Please wait...
RESTful Firmware Update Manager
```



ファームウェア更新は、基本、<[step.1-13] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認>の「A. ファームウェア展開の完了待ち」のタイミングで行われます。

しかし、ファームウェアによっては、上記タイミングにて、ファームウェア更新パッケージを iLO のインストールキューに登録し、このタイミングでファームウェア更新する場合があります。

System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下図画面表示に切り替わります。



[step.2-02] ファームウェア更新の確認

A. ファームウェア更新完了の確認

この時点におけるファームウェア更新が全て完了しているか否かを確認します。


具体的には、iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて[ファームウェア] (①)をクリックし、「ファームウェア」画面にて[インストールキュー] (②)をクリックします。

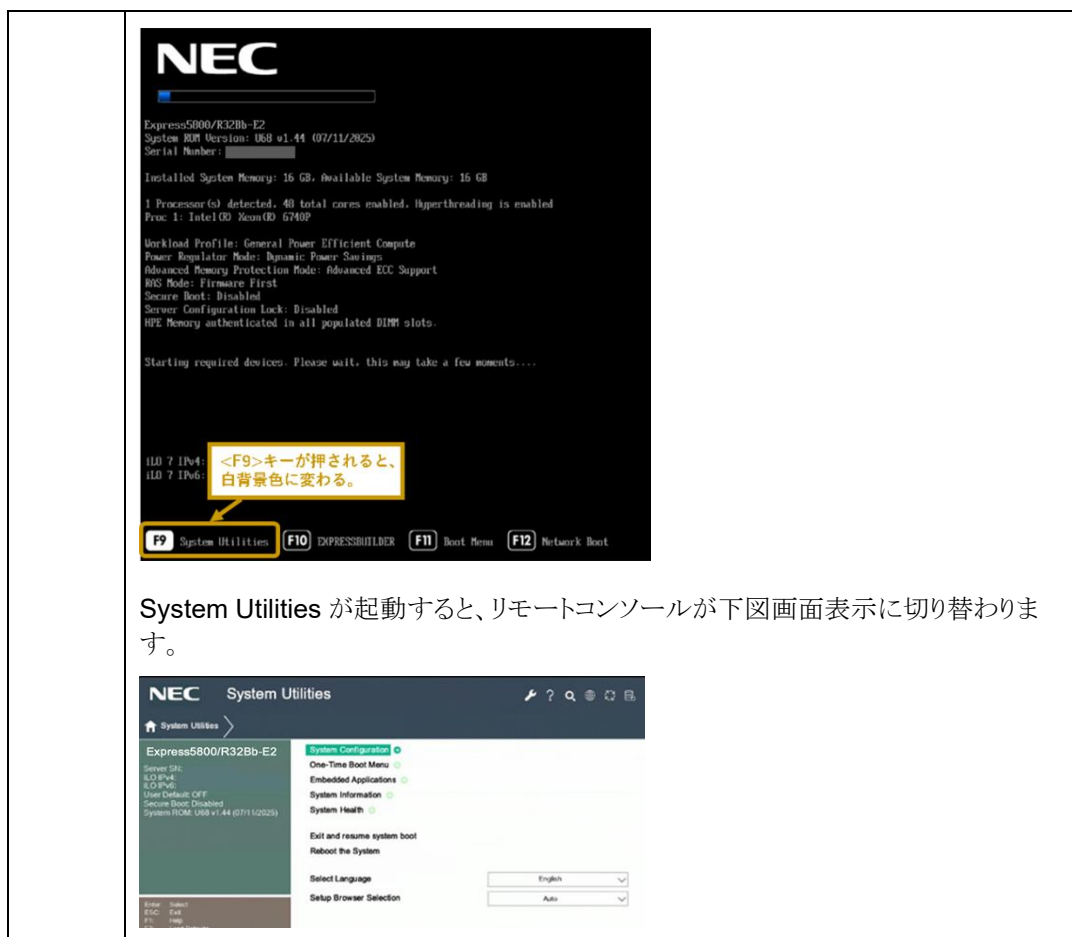


そして、「インストールキュー」画面において、ステータス欄 (③箇所)を確認します。



- ステータスが「保留」或いは「進行中」であるタスクが存在する場合、全てのタスクが「完了」するまで、待ち合わせます。


 重要	<p>待ち合わせしている際、本体装置が数回再起動する場合があります。再起動すると、リモートコンソールが下図 POST 画面表示になりますので、<F9>キーを押して System Utilities を起動してください。</p>
--	---



System Utilities が起動すると、リモートコンソールが下図画面表示に切り替わります。

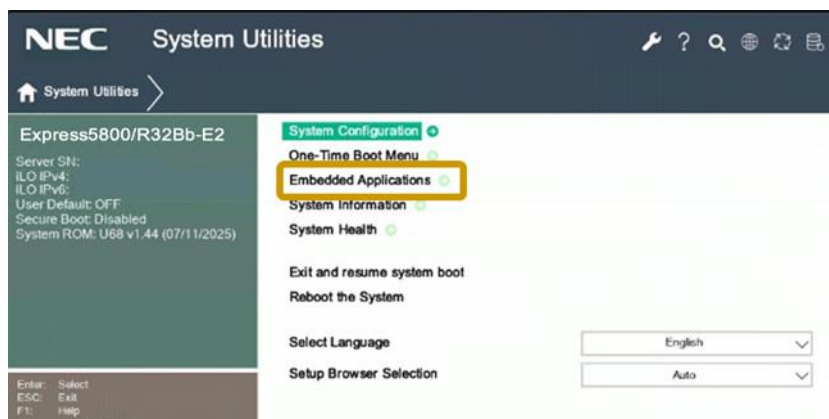
そして、『全てのタスクが「完了」し、且つ System Utilities が起動している』ならば、次の<[step.2-03] UEFI Shell の起動>に進みます。

- ステータスが「保留」或いは「進行中」であるタスクが存在しない、あるいはタスク自体が存在しない場合は、次の<[step.2-03] UEFI Shell の起動>に進みます。

 ヒント	<p>ファームウェア更新は、基本、<[step.1-13] ファームウェア展開の完了待ち及び結果確認>の「A. ファームウェア展開の完了待ち」のタイミングで行われます。</p> <p>しかし、ファームウェアによっては、上記タイミングにて、ファームウェア更新パッケージを iLO のインストールキューに登録し、その後の本体装置再起動後にファームウェア更新する場合があります。</p> <p>本作業は、この「本体装置再起動後にファームウェア更新する」場合に適応させるものです。</p>
---	--

[step.2-03] UEFI Shell の起動

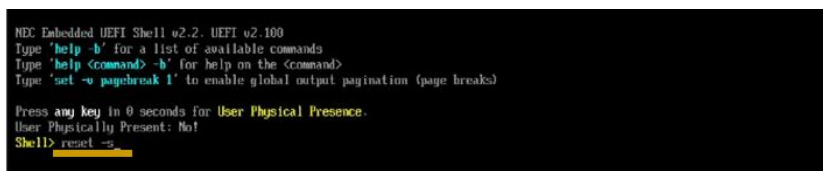
リモートコンソールに表示されている System Utilities 画面において、[Embedded Applications] → [Embedded UEFI Shell] を選択します。



[step.2-04] 本体装置の電源 OFF

リモートコンソールに表示されている UEFI Shell 画面において、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

```
Shell> reset -s
```



[step.2-05] 本体装置の AC OFF → ON

ファームウェア更新に係る不測事象を防ぐために、本体装置を {AC OFF → AC ON} させます。

A. 本体装置の AC OFF

本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯していることを確認した後、本体装置の全ての電源コードを本体装置から抜き AC OFF してください。



ヒント

本体装置が電源 OFF だと、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯します。
電源 ON だと、POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。

B. 本体装置の AC ON

本体装置を AC OFF した後、30 秒以上経過後に、本体装置の全ての電源コードを本体装置に差し込み AC ON させてください。

そして、本体装置が AC ON 完了するまで待ち合わせます。

具体的には、本体装置前面の POWER ランプがアンバー色に点灯するまで待ち合わせます。



ヒント

本体装置によっては、AC-Link 機能が有効となっており、AC ON に連動して電源 ON される場合があります。
電源 ON された場合は、本体装置前面の POWER ランプが緑色に点滅或いは点灯します。
電源 ON されてしまった場合には、本体装置前面の POWER スイッチを 4 秒以上押し続けて、本体装置を電源 OFF してください。

[step.3-01] iLO Web インターフェースへの接続・ログイン

端末パソコンにて Web ブラウザを立ち上げ、本体装置の iLO Web インターフェースに接続・ログインします。

具体的な手順は、前記<5.1iLO Web インターフェース接続方法>を参照してください。

[step.3-02] iLO レポジトリの整理

前記<[step.1-12] ファームウェアの選択>の「D. ファームウェアの展開」を行うと、iLO レポジトリに、各種ファームウェアの更新コンポーネントが登録される場合があります。

これは、ファームウェア更新に際して一時的に登録されただけであり、以後使用することはありません。

よって、ここでは、前記<[step.1-12] ファームウェアの選択>の「D. ファームウェアの展開」にて iLO レポジトリに一時的に登録された各種ファームウェア更新コンポーネントを削除します。

具体的な削除方法については、<8.4iLO レポジトリの整理方法>を参照してください。



<8.4iLO レポジトリの整理方法>を実施する際の『削除対象操作日時』は、前記<[step.1-12] ファームウェアの選択>の「D. ファームウェアの展開」を実施した日時です。

以上で、一連のファームウェア更新作業は終了です。

7. トラブルシューティング

8. 付録

8.1. ファームウェアバージョン確認方法

8.1.1. iLO Web インターフェースでの確認方法

iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて[ファームウェア] (①)をクリックし、ファームウェア画面にて[ファームウェアインベントリ] (②)をクリックします。



そして、下図ファームウェアインベントリ画面の③箇所にて、各種ファームウェアバージョンを確認できます。



各種ファームウェア名とデバイスの対応は下表の通りです。

ファームウェア名 (*a)	対応デバイス)	備考
System ROM	Mother Board (System ROM)	
iLO 7	Mother Board (iLO)	
Language Pack	Mother Board (language pack)	
EXPRESSBUILDER	Mother Board (EXPRESSBUILDER)	
HPE MR408i-o Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-062/062L]	(*01)
HPE MR416i-o Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-063/063L]	(*01)
HPE MR416i-p Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-065/065L]	(*01)
HPE MR216i-o Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-061/061L]	(*01)
HPE MR216i-p Gen11	RAID (MR, Tri-mode) [N8803-064/064L]	(*01)
HPE NS204i-u Gen11	OS ブート専用ボード [N8803-066/066L]	(*01)

BCM 5719 1Gb 4p BASE-T OCP	LOM (bcm, 1G, T)	[N8804-027/027L]	(*01)
10Gb 2-port Base-T BCM57416 OCP3	LOM (bcm, 10G, T)	[N8804-022/022L]	(*01)
Broadcom NetXtreme 5719 Quad Port Gigabit	NIC (bcm, 1G, T)	[N8804-028/028L]	(*01)
Broadcom P210tep NetXtreme-E Dual-port 10GBASE-T	NIC (bcm, 10G, T)	[N8804-023/023L]	(*01)
HPE SN1610Q 32Gb 1p FC HBA	FC (qlgc, 32G)	[N8890-014/015L]	(*01)
(*a) 上図③箇所の「ファームウェア名」欄に表示される文字列の一部です。			
(*01) 本体装置構成によっては表示されない場合があります。			

8.2. HTML5 リモートコンソール

8.2.1. コンソールの起動

iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて[ホスト] (①)をクリックし、ホスト画面にて[リモートコンソール] (②)をクリックします。

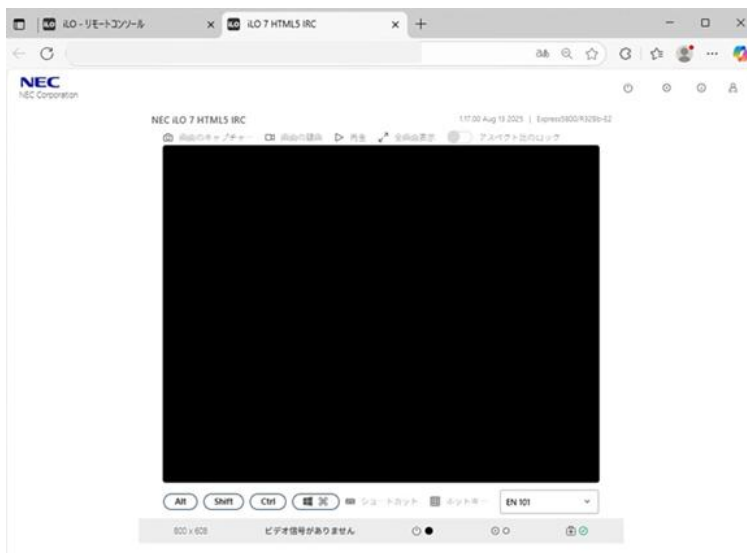


そして、下図リモートコンソール画面にて、[HTML5 コンソールの起動] (③)をクリックします。



そうすると、Web ブラウザ(Microsoft Edge 等)の別タブに、下図コンソールが表示されます。

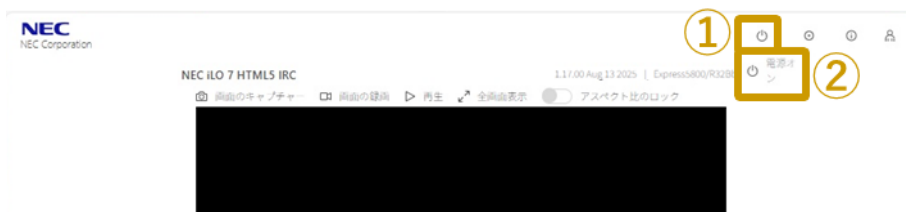
[HTML5 リモートコンソール]



8.2.2. 本体装置の電源制御方法

リモートコンソール右上の電源アイコン (①) をクリックすると、電源操作メニュー (②) がプルダウン表示されます。表示される電源操作メニューは、本体装置の電源状態に依り異なります。

[本体装置電源 OFF 状態のとき]



[本体装置電源 ON 状態のとき]



各電源操作メニューのアクションは下表の通りです。

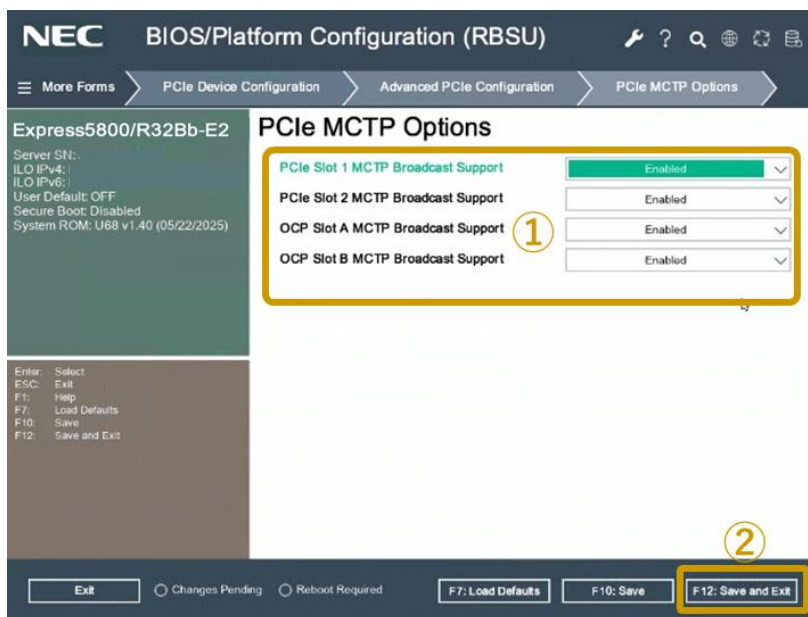
本体装置 電源状態	電源操作メニュー	アクション
OFF	電源オン	本体装置の電源を ON します。
ON	正常なシャットダウン	本体装置の電源を OFF しようとしています。 但し、実際に電源 OFF されるか否かは OS 設定等に依存します。
	強制電源オフ	本体装置の電源を強制的に OFF します。 その他手段で本体装置の電源を OFF できないケースのときのみ使用してください。
	電源再投入	本体装置の電源を強制的に OFF した後、再度本体装置の電源を ON します。 OS 上から本体装置を再起動できないケースのときのみ使用してください。
	リセット	本体装置を強制的に再起動します。 OS 上から本体装置を再起動できないケースのときのみ使用してください。

8.3. MCTP 設定変更方法

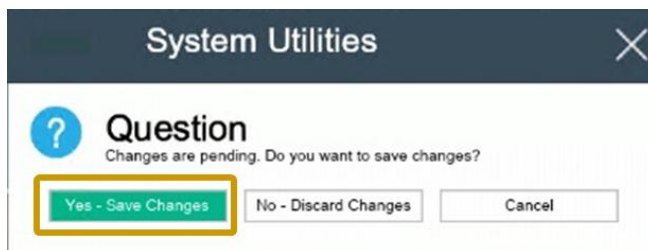
System Utilities 及び iLO Web インターフェースでの MCTP 設定の変更方法を記載します。

8.3.1. System Utilities の MCTP 設定変更方法

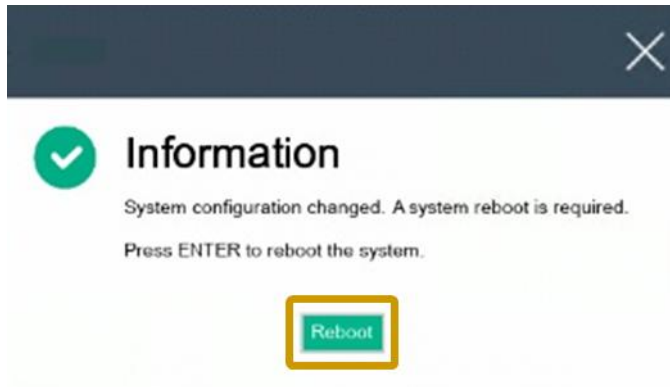
- (01) リモートコンソールを起動し、本体装置電源 ON 後、POST 時に<F9>キーを押して System Utilities を起動します。
そして、{「System Configuration」→「BIOS/Platform Configuration (RBSU)」→「PCI Device Configuration」→「Advanced PCIe Configuration」→「PCIe MCTP Options」} を選択します。
- (02) 下図 PCIe MCTP Options 画面において、MCTP Broadcast Support (①)を適切に設定します。



- (03) 設定変更を保存及び反映させるために、上図画面右下の [F12: Save and Exit] (②)をクリックします。
下図ダイアログ BOX がポップアップ表示されたならば、[Yes - Save Changes]をクリックします。



下図ダイアログ BOX がポップアップ表示されたならば、[Reboot] をクリックします。
本体装置が再起動します。



- (04) 本体装置再起動後、POST 時に<F9>キーを押して **System Utilities** を起動します。
そして、{[Embedded Applications] → [Embedded UEFI Shell]} を選択し、UEFI Shell を起動します。
UEFI Shell 起動したら、下記コマンドを入力して、本体装置を電源 OFF します。

Shell> **reset -s**

```
NDC Embedded UEFI Shell v2.2, UEFI v2.100
Type 'help -b' for a list of available commands
Type 'help <command> -b' for help on the <command>
Type 'set -v pagebreak 1' to enable global output pagination (page breaks)

Press any key in 0 seconds for User Physical Presence.
User Physically Present: No!
Shell> reset -s
```

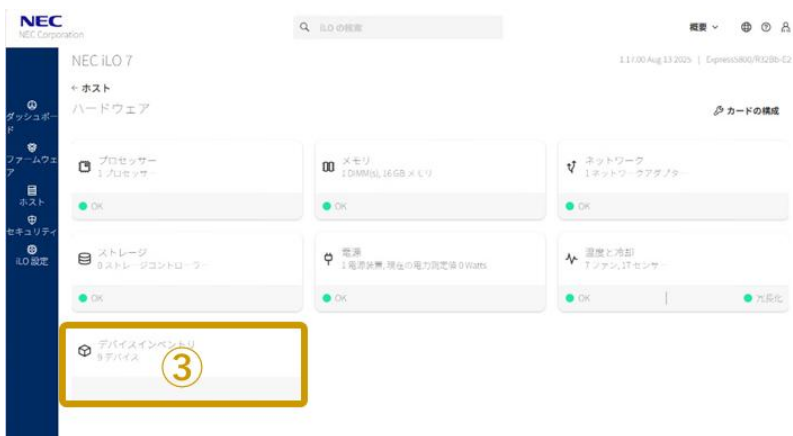
以上で、System Utilities の MCTP 設定変更作業は終了です。

8.3.2. iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更方法

- (01) 本体装置を電源 OFF します。
- (02) iLO Web インターフェースにおいて、ナビゲーションペインにて[ホスト] (①)をクリックし、ホスト画面にて[ハードウェア] (②)をクリックします。



そして、ハードウェア画面にて[デバイスインベントリ] (③)をクリックします。



- (03) デバイスインベントリ画面にて[検出設定] (①)をクリックします。



- (04) 「検出設定」ダイアログ BOX がポップアップ表示されますので、MCTP を適切に設定します。



- MCTP 設定を無効にする場合、
上図デバイス欄の全てのレ印チェック (A-1) を外した後、[アップデート] (A-2) をクリックします。
そうすると、下図のように「検出設定」ダイアログ BOX が切り替わりますので、[確認] (A-3) をクリックします。



- MCTP 設定を有効にする場合、
上図の[MCTP 工場出荷時リセット] (B-1) をクリックします。
そうすると、下図のように「検出設定」ダイアログ BOX が切り替わりますので、[確認] (B-2) をクリックします。



(05) iLO をリセットします。

具体的には、iLO Web インターフェースにおいて、ナビゲーションペインにて[iLO 設定] (①) をクリックし、iLO 設定画面にて、「クイックアクション」メニュー内の[iLO をリセット] (②) をクリックします。



そうすると、下図「iLO をリセット」ダイアログ BOX がポップアップ表示されますので、[はい、iLO をリセットします] (③)をクリックします。



iLO がリセットされると、iLO Web インターフェース接続が切断されます。
約 3 分後に、iLO Web インターフェースに接続可能となります。

以上で、iLO Web インターフェースの MCTP 設定変更作業は終了です。

8.4. iLO レポジトリの整理方法

本書記載ファームウェア更新処理を行うと、iLO レポジトリに、各種ファームウェアの更新コンポーネントが登録される場合があります。

これは、ファームウェア更新に際して一時的に登録されただけであり、以後使用することはありません。

ここでは、iLO レポジトリに登録された各種ファームウェア更新コンポーネントの削除方法を記載します。



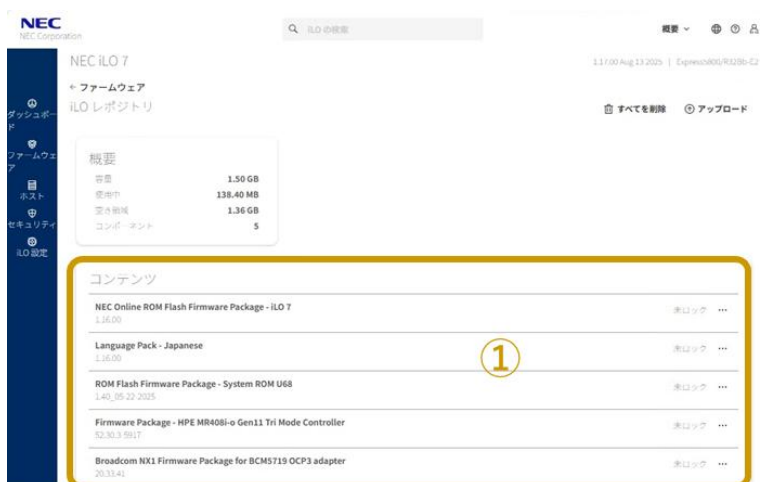
削除対象ファームウェア更新コンポーネントを判別するために、SUM ソフトウェアにて「ファームウェアの展開」操作を行った日時が必要になります。

尚、以後、この『SUM ソフトウェアにて「ファームウェアの展開」操作を行った日時』のことを、『削除対象操作日時』と称します。

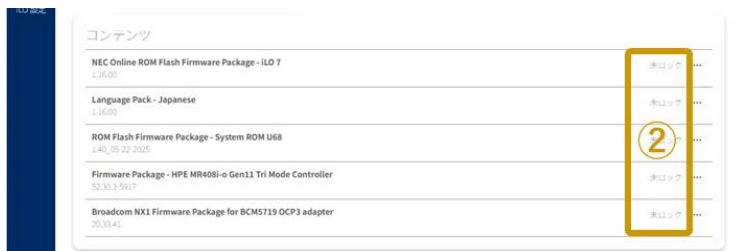
- (01) iLO Web インターフェースのナビゲーションペインにて[ファームウェア] (①)をクリックし、ファームウェア画面にて [iLO レポジトリ] (②)をクリックします。



- (02) コンテンツ(コンポーネント)有無を確認します。
具体的には、下図「iLO レポジトリ」画面において、「コンテンツ」セクション (①)に、1 つ以上のコンポーネントが登録されているか否かを確認します。



- 「登録コンポーネント:0」であるならば、以上で、iLO レポジトリの整理は終了です。
- 「登録コンポーネント:0」以外であるならば、コンテンツステータス (②箇所) が「未ロック」である全てのコンポーネントに対して、下記(03)～(04)を行います。

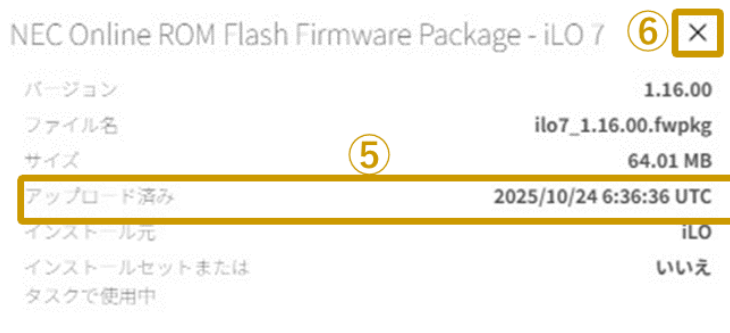


以降の(03)~(04)操作は、コンテンツステータスが「未ロック」である全てのコンポーネントに対して実施します。

- (03) コンテンツ(コンポーネント)のアップロード日を確認します。
 具体的には、コンポーネント表示行の右側の「…」(③)をクリックし、プルダウンメニューから「表示」(④)をクリックします。



そうすると、下図一例のような当該コンポーネント情報ダイアログ **BOX** がポップアップ表示されますので、「アップロード済み」(⑤)の日時を確認します。



- 「アップロード済み日時が、削除対象操作日時である」ならば、当該コンポーネント情報ダイアログ **BOX** の右上「X」印(⑥)をクリックした後、下記(04)に進みます。
- 「アップロード済み日時が、削除対象操作日時ではない」ならば、当該コンポーネントに係る削除操作は不要です。当該コンポーネント情報ダイアログ **BOX** の右上「X」印(⑥)をクリックしてください。

- (04) コンテンツ(コンポーネント)を iLO レポジトリから削除します。
 具体的には、コンポーネント表示行の右側の「…」(③)をクリックし、プルダウンメニューから「削除」(⑦)をクリックします。



そうすると、下図一例のような「コンポーネントの削除」ダイアログ BOX がポップアップ表示されますので、[はい、削除します](⑧)をクリックします。



当該コンポーネントが iLO レポジトリから削除されます。


ヒント

お客様が、意図的に、iLO レポジトリに各種ファームウェア更新コンポーネントを残している訳では無い場合、下記[一括削除操作]にて、コンテンツステータスが「未ロック」である全てのファームウェア更新コンポーネントを一括削除できます。

[一括削除操作]

下図「iLO レポジトリ」画面において、[すべてを削除](①)をクリックします。



そうすると、下図ダイアログ BOX がポップアップ表示されますので、[はい、すべて削除します](②)をクリックします。

すべてのコンポーネントの削除

すべてのアンロックされたコンポーネントを削除しますか?

②

キャンセル

はい、すべて削除します

以上で、iLO レポジトリの整理作業は終了です。

NEC

Express5800/R32Bb シリーズモデル

ファームウェア更新ガイド
(オフライン版、Starter Pack 利用)

2026 年 5 月 第 1 版

日 本 電 気 株 式 会 社

東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

落丁、乱丁はお取り替えいたします。

© NEC Corporation 2026

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。